

幼児教育研究部 第2回研修会

講演会

講師 幼児教育・保育課 副主幹 新谷 知香枝 氏

演題 「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るための保育実践について



・ 主体的・対話的で深い学びとは

○ 主体的な学び

周囲の環境に興味や関心をもって積極的に働き掛け、見通しをもって粘り強く取り組み、自らの遊びを振り返って、期待をもちながら、次につなげる。

○ 対話的な学び

他者との関わりを深める中で、自分の思いや考えを表現し、伝え合ったり、考えを出し合ったり、協力したりして自らの考えを広げ深める。

○ 深い学び

直接的・具体的な体験の中で、「見方・考え方」を働かせて対象と関わって心を動かし、幼児なりのやり方やペースで試行錯誤を繰り返す、生活を意味あるものとして捉える。

・ 幼児教育における「見方・考え方」

幼児が身近な環境に主体的に関わり、環境との関わり方や意味に気づき、これらを取り込もうとして、試行錯誤したり、考えたりするようになる。

・ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた保育改善のポイント

- ① 心を動かし遊びを創出できるような魅力ある環境の構成
- ② 試行錯誤し遊びに没頭することができるような援助
- ③ 振り返りの時間の充実

・ 講話を受けて（自己課題や方策、自園への取り入れ方について）

- ・ 週日案作成時に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」(10の姿)を押さえているが、10の姿を意識した反省、評価が必要であると感じた。
- ・ 10の姿を窓口に保育を振り返っているが、今後、一步踏み込んで資質・能力で振り返れるとよい。
- ・ 保育を振り返り、自分の環境や援助が子供たちの成長にどう影響したか、目の前の子供の育ちを押さえていくことが大切であると感じた。
- ・ 深い学びにつながるよう、環境の出し方や教材研究の大切さを再確認した。教師間で、教材研究し合う時間をつくっていく必要がある。
- ・ 園内研修で、保育の一場面の写真から10の姿で捉え振り返りができているが、3つの学びまでは捉えていなかった。今後は、3つの学びも意識していきたい。
- ・ 主任としての資質・能力の向上を図ることが大切であると感じた。